



TITLE:

東一條雜記

AUTHOR(S):

---

CITATION:

東一條雜記. 天界 1930, 11(116): 78-78

ISSUE DATE:

1930-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161594>

RIGHT:

## 東 一 條 雜 記

十月の總會が終つて間もなく二十一日から 長野縣上水内の金森氏の所へ行つた。同地方有力者たちの熱心に動かされて、花山の出張所を近く同地に設けるつもり準備である。歸途二十二日に上諏訪に立寄つて三澤氏等の一團に迎えられ、約七時間一室に坐り込んだまゝ天文談に耽つた。

十月二十九日から又、東京行きの途中、まづ濱松に下車し、午後は四五人の人々と共に市外の高林家を訪ひ、珍らしい古時計を澤山見せて頂いた。それから同地の高等工業學校に案内され、YM の集り。晚餐の後、七時から主として學生の聴衆に對し「最近の天文學界」<sup>1</sup>といふ題の下に種々な問題の近況を講演した。靜かに落付いた講堂で、時の移るのも打ち忘れ、九時まで話した。此の夜半、汽車で出發。

三十日朝六時といふ早い時刻に東京驛着、直ちに雜司ヶ谷の佐藤氏の門をたゞき、食事を頂き、九時から自由學園での教育勅語記念式に參列。午後は佐藤氏の案内で阿佐ヶ谷に高崎能樹氏の御一家を訪ねた。同家の御長男が幼少の頃から非常に熱心な天文同好者であることを豫てから聞いてゐたので、是非にと申して御目にかゝり、今までの勉學ぶりについて親しく色んな愉快なことをきいた。

翌三十一日は駒澤町に五藤支部長をたづね、午餐を頂いた後、少しく離れた所の野尻抱影氏を訪ねた。氏は恰も御在宅であつたので、大喜び、二時間ほど天文談。再會を約して、四時辭す。

十一月一日、朝、帝大講堂の日本學術協會第6回大會に出席したが、正午から日本橋の丸善へ買ひ物。それから、約束により九段坂上の市立一中に於ける同好會支部懇談茶話會に出席した。五藤支部長の御世話で、二十數人來集歡談、東京天文臺から早乙女、神田、井上三氏も列席された。

晚餐後、三階の講堂で本會創立十周年記念講演會に臨み、先づ神田理學士の「エロス」の話、ついで自分の「宇宙」の話。來聴者は可なり多かつた。此の夜、九時半の急行で歸洛。